

Minami Kyushu University Syllabus							
シラバス年度	2021	開講キャンパス	都城キャンパス	開設学科	人間発達学部		
科目名称 [英語名称]	時事問題研究 [Studies on Current Issues]			実務経験 教員担当	アクティブ ラーニング	○	
科目コード	750016	授業形態	講義	単位数	2	配当学年	1-4年次
教員氏名	外前田 孝			学位授与の方針 との関連			
授業概要	<p>宮崎県の地方紙、宮崎日日新聞社に今年3月まで35年間勤務し、丸30年を記者として過ごした。見出し付けやレイアウトをする整理部記者を皮切りに、報道部県警、市政、県政(キャップ)を担当したほか、東諸支局長、西都支局長、日南支社長と出先を経験。文化部デスク、運動部長、地域情報部長も務めた。私の場合、記者として日々の事件事故やイベント・行事などのストレートニュースでは伝えきれないものを、もっと現象を掘り下げた連載記事(ルポルタージュ)にして紙面に発表してきた。</p> <p>さて、新聞やテレビやネットメディアは、連日さまざまな事件や事故などのニュースを報じている。受け手である私たちはほとむと膨大なニュースの海におぼれそうになる。それらのニュースはたいてい現象であり、そのおもとにある本質は見えづらい。この講義では、いくつかの今日的なテーマを選び、新聞や雑誌の記事などを手掛かりにニュースの本質をとらえる訓練を行う。それを通して、自分たちがどんな時代を生きているかを知るとともに、これから実社会で生きるための問題意識並びにニュースを見る目、さらには民主的な精神を培うことを目指す。</p>						
関連する科目	社会学、経済学、国際関係論、メディア論、法学、日本国憲法、倫理学、環境問題入門						
授業の進め方と方法	<ul style="list-style-type: none"> ・講義用のレジュメを基本的に作成し、コピー資料を用意する。 ・基本的に1時間は講義をし、残り30分は意見交換をする。 ・毎回、「今」という時代の本質が見えるような展開を心掛ける。 						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> ① 自己紹介＋総論「現象と本質の話」 ② 「コロナ禍から見える世界」上…政治の機能不全 ③ 「コロナ禍から見える世界」下…五輪強行 ④ 「原子力と人類」上…福島第一原発事故など原発問題 ⑤ 「原子力と人類」下…原爆問題【ゲスト・佐々木亮朝日新聞記者】 ⑥ 「食卓の向こう側」上…オーガニックと農薬【ゲスト・郷田美紀子さん】 ⑦ 「食卓の向こう側」下…小農の時代 ⑧ 「障害者と共に生きる」…【なのはな村・藤崎理事長】 ⑨ 「地方の危機」上…現状 ⑩ 「地方の危機」下…存続への打開策 ⑪ 「教育ってなんだ 教養が危ない」 ⑫ 「メディアの変遷と変容」 ⑬ 「社説を書こう」上 ⑭ 「社説を書こう」下…発表を兼ねて ⑮ まとめ…ディスカッション <p>※テーマは前後入れ替わることがある。</p>						
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会で日々生起する問題に関心を持ち、問題の本質がどこにあるのかを自分の頭で考える習慣を身につける。 ・一強政治の下で公文書が破棄、改ざんされたり、まっとうな議論が軽視されたりしがちだが、授業のディスカッションを通して民主的な手続きや手法がいかに大事かを体感してもらう。 						
授業時間外の学修	<p>授業計画で取り上げるテーマについて多くの新聞記事や雑誌記事、著書あるいはテレビのニュース番組・特番などに事前に目を通し(視聴し)、自分なりの考えや見方をあらかじめまとめておいてほしい。ぶっつけ本番では各テーマに関する知識量や材料が不足しディスカッションに参加しづらくなる。</p>						
課題に対するフィードバック	「地方の危機」の授業では授業後に「地方はこれからどうすれば存続できるか」についてレポートを提出してもらう。論理構成や視点などについて感想を添えてフィードバックする。	評価方法	出席日数、授業中に書いてもらう「社説」、テーマレポート、試験のレポート				
テキスト	日々の新聞記事						
参考書	『メディアの罨』(青木理ほか、産学社)、『人新世の「資本論」』(斎藤幸平、集英社新書)、『農の明日へ』(山下惣一、創森社)、『ナガサキノート1、2』(朝日新聞長崎総局、朝日新聞社)、『食卓の向こう側』(佐藤弘ほか、西日本新聞ブックレット) このほかテレビではTBSの「サンデーモーニング」「報道特集」、BS-TBS「報道730」も必見。						
備考							